

平成 28 年度 燕市青少年育成センター運営協議会 会議録（要旨）

日 時：平成 29 年 2 月 13 日（月） 午後 3 時～

場 所：中央公民館 3 階 第三会議室

出席委員：齋藤委員、若狭委員、吉田委員、清水委員、高田委員、
井部委員、北見委員、長谷川委員

欠席委員：笠原委員、宮崎委員、渡辺委員、

事務局：仲野教育長、宮路課長、古澤課長補佐、田中主任、川本主任

報道機関：なし

傍 聴 者：なし

1. 開会

事務局：ただいまより平成 28 年度燕市青少年育成センター運営協議会を開催します。

昨年内諾いただいた、会長（分水中学校長）・副会長（小池小学校長）で進行願い、会長が議長を兼任し、井部校長から挨拶を含め議事進行をよろしくお願ひしたい。

会長：青少年の問題をみんなで考える意味でお集まりいただいた。多くの機関と連携し、現状や意見を、これからのよりよい燕市の青少年行政に結びつけたい。スムーズな議事進行を望む。初めに事務局から「（1）平成 28 年度事業実施状況について」の説明を願う。

2. 協議題

（1）「平成 28 年度事業実施状況について」（数字は 1 月末で掲載）

事務局：資料にもとづき説明。

議長：今年度の事業実施状況について報告があった。質疑のある方は挙手をお願いする。

委員：報告にあった「少年の主張」について、地域代表の結果を知りたい。新潟県大会で、聴覚障害を持つ祖父母との生活体験の主張を聴いた。テレビで見た全国大会は感動した。手話を交えての主張に皇室からのお誉めの言葉もいただいていた。今後の燕代表にも期待する。

事務局：今年度の燕市代表は地区予選で敗退し、県大会・全国大会には出場できなかった。全国大会出場は五泉北中 1 年生。次年度以降も市内中学校国語部に協力いただき参加したい。

委員：家庭教育講座と風の子くらぶの内容について問う。

事務局：家庭教育講座については「心の燕市 8 つのチャレンジ」で 1 講座 7,000 円を限度に助成している。今年は 31 件の申請があった。「子どもの心のコーチング」、「親子で絵本を楽しむ」、「楽しく正しい食事」、「スキンシップを通した親子」などをテーマに、地域の課題を取り入れた講演会を実施していただいた。昨年からの報告集をつくって関係者に参考にしてもらう。

事務局：風の子くらぶについては、アウトドア系の行事を中心に前期・後期に分けて実施している。火おこし・テント張・ロープワーク・方位磁石学習や、河川体験や調理体験、市外の施設見学（災害・歴史）など遊びを通じて勉強している。

議長：若者自立支援活動の中で就労について、今年の実績はあるか。

事務局：1月末現在で7人の就労実績あり。

委員：引きこもりの子どもは相談に出て来るのが大変。閉じこもり防止策など中身の伴う事業展開・盛り上げを望む。相談、参加とも減っているのが気になる。魅力ある事業展開を。

事務局：相談件数、プログラム参加人数を資料に表示した。相談は三条サポートステーション職員が対応。最近は本人より保護者の相談が多い。本人のプログラム参加以前の相談も多い。

事務局：就労支援・引きこもりを同時に考え、一本化した事業展開を考えたい。こちらから出向くアウトリーチも視野に入れたい。

議長：他に質問はあるか。無いようであれば28年度事業について承認の拍手をお願いしたい。

(拍手)

議長：拍手により本件は承認とする。続いて「(2)平成29年度事業計画(案)について」の事務局からの説明を願う。

(2)「平成29年度事業計画(案)」について

事務局：資料にもとづき説明。

議長：次年度の事業計画について報告があった。質疑のある方は挙手をお願いする。

委員：先日分水地区で開催した内科医による子育て支援(虐待・家庭内暴力含む)講演はわかりやすく良かった。今後もこういった講演会(貧困問題含む)を望む。

事務局：参加者からの好評を聴いている。地元の女性医師によるわかりやすい温かな講演が聴けてよかったと感想もいただいている。今後も主催講演事業を開催したい。

議長：次年度の事業計画についての意見要望はあるか？無いようであれば承認いただける人の拍手をいただきたい。

(拍手)

議長：拍手を持って本案は承認いただいた。

(3)・(4)意見交換・その他

議長：続いて「(3)意見交換」と「(4)その他」を一括で進めたい。自由に意見交換いただきたい。

委員：小中学校の教員にお尋ねしたい。学校でゲームに関連した調査は行っているか。

委員：小池小では中学校区と協力し昨年度から進めている。依存症関係で時間など親との約束ごとなどを調査している。結果の集約数値に驚いている。家庭での話し合いを保護者をお願いしている。

委員：吉田中でも小学校(兄弟・姉妹関係もあり)と協力している。DSなど小型ゲーム機のインターネット接続など奥が深い。「元気アップ週間」と題してテスト前にメディアコントロール期間を設けている。年2回の取組みコメントを回収しまとめている。有意義だと好評いただいている。

議長：分水地区でも中学校のテスト期間に合わせた規制や、メディアコントロール、アンケートを実施している。最近ではネット中毒・ゲーム脳などと言われ、社会性が身につかない子ども

もたちが多。また地域コミュニティがうまくいくところ、いかないところの差がある。学童保育や入学の際などでも教育として取り入れられないか。

委員：食事よりもネット（親子のスマホ通信手段・所在確認）にお金をかけている。

議長：入学式のガイダンスでスマホのフィルタに取り組んでいる。

委員：つばめっ子かるたの会場客席でも、親のスマホでゲームに熱中する子どもを見かけた。親が子どもに子守り道具として与えているような雰囲気がある。

議長：高校側では何かあるか。

委員：特にない。

委員：子どもの貧困問題も影響がある。子どもの貧困をこの数年間で強く感じる。一人親家庭での連絡手段としてのスマホ状態。諸費用の未納対応は今後問題が増えてくる。貧困家庭への教材や諸料金の援助、それすらの使い込みなど、荒れる学校や不登校・引きこもりの要因としても多くなったように思う。福祉の相談でも個々に直接入り込むことができない状態も否めない。

議長：貧困問題は今後重要課題になって来る。これからもみんなで青少年の問題を考えていきたい。

議長：他に意見はないか。なければこの辺で議長の職を終えたい。

事務局：井部先生、会の進行ありがとうございました。最後に仲野教育長から挨拶があります。

（仲野教育長から本会議の意見・内容を踏まえ、貧困の実態の本を紹介し結びの挨拶）

事務局（古澤）：これで平成28年度燕市青少年育成センター運営協議会を閉会したい。別添資料のとおり、3月4・5日「増築棟の内覧」、「市民教養講座のフェスティバル」、「多目的室での三大講演会」がある。5日は「子どもたちとスマホ・SNS」をテーマに行う。是非参加いただきたい。

3. 閉会

事務局：長時間ありがとうございました。

午後4時5分閉会